

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300652		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム百楽苑		
所在地	蒲郡市三谷町南寺戸12-1		
自己評価作成日	平成22年12月6日	評価結果市町村受理日	平成23年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成22年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と海に囲まれ、自然環境に恵まれたグループホームです。「ともに思いやる心」を理念とし、家庭的な雰囲気の中で自由にゆったりと過ごし、地域との関わりを大切にしながら生活ができるように支援しています。職員は、目配り・気配りを心がけ、自分や自分の家族にしてほしいと思う介護を常に考えています。認知症があっても、個人個人の「できる事」に目を向け、ご本人の可能性や機能を十分に発揮できるように支援しています。不安のある場合は、寄り添い傾聴したり、買物や外出支援等の気分転換を図り対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が日常生活を楽しく過すには、何を望んでいるのか、何を希望しているのかを把握し日々考えながら利用者本位のケアを心掛けている。また、身体状況の変化には注意を払い、それらを踏まえてケース検討会議が増えており、より統一したケアが出来る様になっている。運営推進会議を年6回開催することにより、地域との交流が深くなり、地域行事への参加が増えている。家族との関係は、管理者が10月に交代して間もないので多少の戸惑いはあるが意見は「良く聞いてもらえる」との声もあり、今後が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・フロア等の目に付くところに掲示し、常に意識付けし、実践につながるようにしている。	職員は理念を念頭に置き、日常生活の中で利用者の表情や行動を見てその心情を察し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園の運動会、お相撲さん交流会への保育園児の招待、地元の祭礼への参加等で交流を図っている。	近隣の散歩で地域の人と挨拶をしたり、当ホームの玄関周りの掃除をしていると、通りががりの人が話しかけてくれる。また保育園の運動会などに参加すると敬老席がもうけてあるなど配慮がされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地区委員の方等に、支援の方法を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区委員の方から情報提供いただいたことを参考に、外出行事に取り入れている。	運営推進会議の内容は利用者の状況及び対外的なものを含めた活動報告、その他に意見交換である。その中で町内会の回覧にホームの新聞を組み込むお願いをしたところ、良い返事が貰えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指定更新に関する指導・助言をいただいた。また、運営推進会議において、意見交換を行っている。	蒲郡市役所担当者や地域包括支援センター職員とは、相談や連絡、報告などを行っている。また、認知症サポーターによる講習をホームで開催してはどうか提案をされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にならないよう、入居者様の状況に合わせ、危険の無いほうに誘導したり、コミュニケーションを心がけている。	職員は利用者に対して身体拘束や高齢者虐待について禁止事項とすることを周知している。言葉遣いについても、会話や行動で気になる時は気付いた時に話をして、納得してもらっており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による暴力がないよう、接遇研修を実施した。また、個別のケース検討をする際、虐待の用件に該当しないよう配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び成年後見制度に関するファイルを開覧し、必要な方に説明できるようにしている。また、保佐人を設定されている入居者様がいるので、必要に応じ連絡している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約を行う際、重要事項説明書に基づき説明し、契約を行っている。また、後日、サービス内容、料金等に不明な点がある場合は、いつでも尋ねていただくよう言葉を添えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付を実施しており、職員にその内容を周知し、指摘事項の改善について協議し、実施している。また、面会時にご要望等を伺い、サービスに反映させている。	家族には毎月1回利用者の日常の生活ぶりや身体状況を報告している。また、法人独自で行った家族への接遇のアンケートの返事ではいい評価を貰っている。他に要望を貰った時には職員間で検討して早急に改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通じ、意見交換を行い、改善が必要な点を協議し、実施内容を共有する。	10月に管理者が交代してから、全体会議の開催を増やしている。職員の意見は管理者から上司に伝えている。その中の一例として利用者の服薬について、基本的な服用の仕方について水か白湯を使うなどの徹底をすることなど、ケアに関する意見は聞いて反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別のヒヤリングを実施し、業務の取り組み等を把握・確認しあうとともに、上司から評価をするとともに今後の努力目標を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受けている。また、必要に応じ伝達研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東三河グループホーム連絡協議会等の研修に参加し、交流を通じサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当介護士を付け、施設の場所や日課、人間関係等に慣れていただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、要望等を伺い、サービスに反映している。また、入居当初はご家族の来所も多いため、協力していただくことはお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、ご家族・ご本人からの要望を伺い、サービス方針、内容等について協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の能力に応じ、できることはお手伝いいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も、定期的にご本人の様子を伝えたり、必要な支援をしていただけるよう依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が利用されていた理美容院へお連れし、入所以前の間人間関係を大切にしている。	利用者の入居前の知人が来訪したり、家族と一緒に墓参りや外食に出かける人や、正月は自宅に帰り家族と過ごす人もいて、入居前の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にゲームや家事を行っていただき、良好な関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族と町で出会った際に話を伺い相談にのったり、サービス終了後に来所くださるご家族がいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を伺うとともに、生活歴や性格等を参考に、ケアマネージャーと介護計画を立てている。	日頃の支援を通し利用者が何を望み、何をしたいのかを汲み取り、それを明確にしてケアプランに反映させるようにしている。全体会議で職員間の情報共有を図り、支援の方向性を統一させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、アセスメントしたものを個人ファイルに綴じ込み必要に応じ介護の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の連絡を密に情報交換をし把握している。また、毎日のバイタルチェック、食事量、排泄等を記録し身体状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護士とケアマネージャーが中心に、日ごろの職員からの情報をもとに課題とケアの方法を検討している。	利用者の担当制を設け、一人ひとりの状態をしっかりと把握し、定期的にモニタリングを行い、それを踏まえ現状に即したケアプランを作成している。面会の際に家族の意向も聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送りや日々の入居者様の変化や介護方法について検討し実践している。また、必要に応じ、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	寿楽荘(老人センター)での入浴にお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望によりかかりつけ医の受診を支援している。また、かかりつけ医への随時の受診介助を行い、必要に応じ紹介状により機関病院を受診している。	月に2回協力医の往診があり、薬の処方を行っている。利用者の状態の変化などがあればその都度相談し助言をもらっている。また、眼科や皮膚科などかかりつけ医への受診も、家族の負担を軽減する為ホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の医師の指示を確認し、必要な観察を行い介護士との情報交換を行っている。また、介護士からの相談に応じ、適切な助言を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、適宜お見舞いに伺い状態を把握するとともに、医療相談室の相談員や担当看護師から現状把握を行い、受入れ可能な状態を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に伴い、ご家族にもご本人の様子を確認していただき、医療と施設におけるターミナルケアについてご説明をしている。また、入院に際しては、医療相談室の相談員と連携し、入所の継続又は療養型病院の紹介等、必要な支援を行っている。	家族や利用者から看取りの希望があれば対応をしているが、基本的に医療行為のない看取りのみとしている。利用者の状態の変化にあわせ、家族と支援の方向性を話し合い、必要であれば他施設の紹介など情報を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で実施される救急救命講習を受講している。また、緊急時の連絡の可能性がある場合は、連絡体制について確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、内1回は夜間想定で実施している。また、消防の立会いを依頼し助言を受けている。	消防署立ち合いのもと、年に2回避難訓練を実施している。その際、避難誘導の仕方や注意点のアドバイスをもらっている。また消火器の使い方の講習も行い、いざという時に全職員が対応できるように努めている。	今後運営推進会議などを通して、緊急災害時における地域の協力体制が整えられるよう、外部への働きかけを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重する言葉かけをし、排泄介助については、居室のドアを閉めて行う等、誇りやプライバシーに配慮して行っている。また、言葉遣いチェックを年2回行い、自己の言葉かけの反省を行っている。	接遇の研修を行うと共に言葉遣いの自己評価を定期的に行い、自分を見直す機会を設けている。職員は利用者を人生の先輩として尊敬しており、日常生活の中でも配慮が伺える。書類に関しては鍵をかけて個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押し付けや思い込みによらないよう、何を希望されるか伺って行っている。また、ご自分で意思をうまく伝えられない方には、うなずきや表情で意思を汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中で、ご本人の希望を伺いながら、必要に応じ、声がけや促しを行って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えや外出時の衣類は、ご自分で選んだものを着用していただいている。また、きれいな刺繍やおしゃれなものを身につけている場合は、「似合いますよ。素敵ですね」の声をかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、食器洗い等を行っていただいている。また、食事は、咀嚼能力に応じぎざみやミキサー食を提供している。	毎月利用者の希望のメニューを取り入れて、作成している。利用者の状態に応じて、配膳や後片付けを職員と共に行っている。また、レクリエーションで利用者と一緒に作るおやつは好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てたメニューを提供している。また、水分摂取は食事、おやつ時にお茶や好みの物を提供し、水分量の把握を行っている。不足がちの方は、管理栄養士に相談し、水分摂取の工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は義歯をはずしていただき、その方の能力に応じ、洗浄・うがいの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、時間や習慣について把握に努め、必要に応じトイレ誘導を行っている。	チェック表で一人ひとりのリズムを把握し、それに合わせて対応をしている。利用者が自分のリズムで排泄ができるようになれば、布パンツに変更するなど自立に向けた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に配慮し、必要に応じ腹部マッサージを行っている。また、きのこ類を取り除いたり、牛乳、センナ茶を提供するなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂に入りたい方、受診日の前日に入りたい等の希望に応じている。また、入浴をしたがらない方にも、上手な声かけを工夫し清潔を保っていただけるようにしている。	入浴は基本的に毎日入れるよう対応している。拒否する利用者には、声かけの工夫や時間差で誘うなどしているが、無理強いをしないようにしている。また、入浴の際、体に傷や打ち身がないかなどもチェックしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中活動を無理のない範囲で行っていただいている。また、日中の休息も状態に応じて行っている。夜間、時間を間違えて起きられた方には、時間を伝えしばらくお話をするなどして、お休みいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の薬情報をまとめ、必要に応じ確認できる環境を作っている。また、入居者様の状態に応じ、適宜、薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌がお好きな方に歌っていただいたり、夏祭りや新年会でのビールの提供、入浴後に牛乳を希望される方に提供したり、コーヒーを希望される方にお出ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じ、買物やお盆のお墓参り、理容店へお連れしている。また、ご家族による散歩介助や外食の協力をしていただいている。外出レクや喫茶店での誕生日会等も行っている。	月に一度はお出かけレクリエーションと称して、利用者が希望する回転ずしやラグーナ蒲郡などへ出かけている。また日々の散歩や家族と一緒に墓参りや買い物などへ出向くなど、気分転換が図られる場を定期的にするよう努めている。	個別支援として、今後利用者個々の希望に合わせた外出支援の計画を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はご家族の希望により所持していただいている。また、自己管理できない方については、立替金により必要な買物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族へ電話を依頼される場合は、ご家族の都合のよい時間に配慮し、立会いのもと行っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に清掃を行っている。汚染がある場合は、転倒の危険がないようその都度清掃したり、適宜換気を行っている。また、季節感を感じていただけるよう、壁面飾りを季節のもので飾っている。	ホーム内で犬を飼っているが、フローアや共用部もきれいに掃除がされ、利用者が快適に過ごせるよう配慮がされている。壁には季節を感じさせる装飾や利用者の写真が飾っており、家庭的で温かい雰囲気のあるホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、テレビを見ていたり、休んでいただいたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具やなじみの物を持ち込んでいただいている。	各居室には利用者が入居前に使用していた筆筒やテーブルなどが持ち込まれている。また、趣味の手芸用品や家族の写真などが飾られており、本人個々に好みの部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子やシルバーカーの方でも安全に移動できるような構造になっている。また、トイレの場所が分からない方には、張り紙で分かりやすくしている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2373300652
事業所名	グループホーム 百楽苑

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	保育園の行事参加や小学校のベルマーク集めや中学校の廃品回収などの協力は継続している。地域の三谷祭りの参加や地域行事の参加は継続している。また、今年は月1回ほど利用者と一緒に地域の老人福祉センターを利用して、入浴やカラオケなど楽しむ催しがある。	○
重点項目 ②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議は年6回開催している。出席者は、蒲郡市役所長寿課職員、民生委員、東部地域包括支援センター職員、老人クラブ会長、利用者家族代表及び当ホーム職員である。会議では看取りについての意見交換は積極的に行っている。地域の行事に参加が増えたり、三谷祭り、保育園の運動会では敬老席を設けるなど配慮をしてもらえた。また、スプリンクラーの設置報告もしている。	○
重点項目 ③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	当事業所の指定更新にあたっては、書類などの相談をしたり助言を貰っている。他に介護認定更新などに出向いた時などに、ホームの現状などを話すことがある。	○
重点項目 ④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族には毎月1回利用者の生活ぶりなどを報告している。また、年4回「ばんざい百楽新聞」や毎月法人の「寿宝会便り」を発行している。家族から、利用者の身だしなみなどについて要望があり職員間で検討して改善している。	○
重点項目 ⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認

